



様式1(主な取組)

活動指標名	しまくとぅば普及の中核的機能を担う普及センターの設置・運営				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
	-	設置・運営	運営	運営	運営	-	100.0%	87,783	順調	平成29年度に設置した「しまくとぅば普及センター」の運営を沖縄県文化協会へ委託し、各地域における人材の養成や活用のコーディネートその他、地域の会話集の作成、しまくとぅば検定の実施、県民からの相談対応等の業務を行った。	
活動指標名					R2年度						
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、「しまくとぅば普及センター」の運営により、講師養成講座及びしまくとぅば検定を実施したほか、出前講座も10件行うなどしまくとぅばの普及に向けて県民がしまくとぅばを学べる環境整備が促進された。
活動指標名					R2年度						
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
(2) これまでの改善案の反映状況											
令和2年度の取組改善案						反映状況					
<p>・公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとぅば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。</p>						<p>・県内各地域の市町村文化協会などしまくとぅば普及団体と連携し、地域のしまくとぅばの会話集及び絵本・紙芝居などの普及ツール作成支援を継続し、地域の普及団体の取組みに応じた支援を行うことができた。</p> <p>・しまくとぅば講師養成講座については、中級講座が新型コロナウイルス感染症拡大の為に中止となったが、沖縄本島南部で上級講座を開催し、上級講座の受講を経て認定試験に合格した36名に対して認定証を発行した。</p> <p>・しまくとぅば検定については、従来の9級～7級に加えて6級を実施した。</p>					



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

- ・県内各地域のことばがそれぞれ異なるため、各地域に適したきめ細かい支援が重要。
- ・各地域への支援のためには、コーディネート業務が重要となるが「しまくとぅば普及センター」人員は、自身になじみのない地域においては、地域の普及団体等との信頼関係構築に時間を要する。
- ・全県的な取組につながるよう、講師養成講座及びしまくとぅば検定の実施回数及び実施場所を拡充としているが、これらの実施に期間を要している。

##### ○外部環境の変化

- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、対面でのイベント・講義が実施困難になっている。
- ・「しまくとぅば県民意識調査」によると、「しまくとぅば」を話せる人の割合は昨年度より下落した。一方で、しまくとぅばに親しみを感じている人やしまくとぅばは必要であると思う人の割合、しまくとぅばへの理解度は高い割合で推移している。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・県内各地域の取組をさらにきめ細かく支援するため、市町村文化協会など、他のしまくとぅば普及関係団体と連携していく必要がある。また、モデルとなるような取組支援の実績を作る必要がある。
- ・しまくとぅば講師養成講座及びしまくとぅば検定について、実施回数の増、未開催地域での開催を検討するほか、実施体制も検討する必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとぅば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	① しまくとぅばの保存・普及・継承
			施策の小項目名	—
主な取組	人材養成講座・出前講座の開催			
対応する主な課題	①沖縄各地域で世代を越えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にあるため、保存・普及・継承に一層取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
しまくとぅばの普及継承を一層促進させるため、しまくとぅば普及の中核的機能を担う「しまくとぅば普及センター」において、各地域における人材養成講座及び学校等への出前講座を実施する。		20地域で開催				
		しまくとぅば普及の核となる人材の養成講座を各地域で実施				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課					
	【098-866-2768】					
		講座開催件数10件				
		各地域の学校、幼稚園、保育所、民間企業等に対して、出前講座を実施				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	しまくとぅば普及継承事業						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ソフト)	委託	87,978	134,555	72,590	91,014	87,783	94,806	一括交付金(ソフト)	OR2年度：	養成講座20地域実施 出前講座10件実施
									OR3年度：	養成講座30回以上実施 出前講座10件以上実施
予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
									OR2年度：	
									OR3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	しまくとぅば普及の核となる人材の養成講座を各地域で実施				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	9地域	24地域	19地域	22地域	9地域	20地域	45.0%	87,783	やや遅れ	「しまくとぅば普及センター」において、中南部地域や北部地域を中心に9地域で人材養成講座を開催したほか、学校や公民館などにおいて出前講座を10件開催した。
活動指標名	各地域の学校、幼稚園、保育所、民間企業等に対して、出前講座を実施				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
				16件	10件	10件	100.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 出前講座実施回数については目標達成したが、人材養成講座実施回数については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大幅遅れとなった。 上記に加え、講師養成講座、しまくとぅば検定を実施することにより、次世代へしまくとぅばを普及継承していく人材の育成を図った。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				
・公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとぅば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。						・県内各地域をこまめに訪問し、地元で普及活動を行う団体や古老に、しまくとぅば普及活動に関し聞き取りを行い、ニーズに即した普及活動支援を行った。				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

- ・ 県内各地域のことがそれぞれ異なるため、各地域に適したきめ細かい支援が重要。
- ・ 各地域への支援のためには、コーディネート業務が重要となるが「しまくとぅば普及センター」人員は、自身になじみのない地域においては、地域の普及団体等との信頼関係構築に時間を要する。
- ・ 全県的な取組につながるよう、講師養成講座及びしまくとぅば検定の実施回数及び実施場所を拡充としているが、これらの実施に期間を要している。

##### ○外部環境の変化

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大により、対面でのイベント・講義が実施困難になっている。
- ・ 「しまくとぅば県民意識調査」によると、「しまくとぅば」を話せる人の割合は昨年度より下落した。一方で、しまくとぅばに親しみを感じている人やしまくとぅばは必要であると思う人の割合、しまくとぅばへの理解度は高い割合で推移している。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 県内各地域の取組をさらにきめ細かく支援するため、市町村文化協会など、他のしまくとぅば普及関係団体と連携していく必要がある。また、モデルとなるような取組支援の実績を作る必要がある。
- ・ しまくとぅば講師養成講座及びしまくとぅば検定について、実施回数の増、未開催地域での開催を検討するほか、実施体制も検討する必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・ 公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとぅば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。



様式1(主な取組)

活動指標名	補助事業件数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		—	12件	11件	12件	7件	10件	70.0%	87,783	やや遅れ
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>「しまくとうば普及継承事業」全体の成果指標となっている「しまくとうばを挨拶程度以上、話す人の割合」の向上に繋がるような事業、例えば若い世代に向けた事業等を採択事業とする。</li> <li>補助事業者に対して、事務処理に関する手引き等を周知し、計画に沿った事業実施及び予算執行等を行うよう支援する。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>若年層を参加対象とした島唄コンテストをはじめとした多彩な事業が採択された。</li> <li>新型コロナウイルス感染症防止のため、各団体に独自の感染拡大防止ガイドラインを作成した上で事業実施を行うよう指導した。</li> </ul>				





## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・普及団体がこれまで補助事業に関わったことのない団体等が多く、事務作業そのものについても不慣れな団体がほとんどであることから、補助事業の制度そのものの理解が難しく、事業の執行に多大な支援を要する。

##### ○外部環境の変化

・県内団体で応募する団体や地域に偏りがある。  
・新型コロナウイルス感染症対策を事業内に盛り込む必要があり、補助事業を申請することを断念する団体が相次いだ。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・各団体が補助事業の制度を十分理解し、円滑に執行できるようサポートする必要がある。特に感染症対策に関しては、感染拡大防止ガイドラインのひな形作成・配付などによる支援が重要である。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・各団体の事業について、どのような年代層をターゲットとしているかを補助申請時に確認し、若い世代に向けた事業について積極的に採択する。
- ・補助事業者に対して、事務処理に関する手引きや感染症拡大防止対策・ガイドライン等を周知し、計画に沿った事業実施及び予算執行等を行うよう支援する。



様式1(主な取組)

活動指標名	各地域でのシンポジウム等の開催				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	4	2	1	3	33.0%	10,901	大幅遅れ	<p>県内各地域の伝統行事、伝統芸能、しまくとぅば等の普及・継承についての座談会を無観客で1回実施した。また、例年は開催している「特選沖縄の伝統芸能」(普段は地域の祭事等でしか披露されていない各地域の伝統芸能を一カ所に集め、国立劇場おきなわで披露する公演)は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>県内1地域(糸満市)でその地域の伝統行事や伝統芸能をテーマに座談会を行った。講師を招き文化講演を行うことで、地域文化の魅力について再認識できた。</p> <p>また、県内各地域で継承されている伝統芸能、伝統行事を披露する公演「特選沖縄の伝統芸能」が中止となった代替に、過去の同事業の実績と、過去の公演で取り上げた各地域芸能の現在と今後の展望をまとめた冊子「地域の伝統文化 継承の現状と課題」を作成した。</p>
活動指標名	地域の伝統芸能を集めた公演				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	1回	1回	0回	1回	0.0%			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を開催する。</li> <li>地域の伝統芸能等に関するテーマを1つ取り上げた講演会を開き、複数の地域を招いて情報交換の場を提供することで、県民1人1人が自身の地域の伝統文化を見つめ直すことができるよう機運醸成を図る。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの感染予防のため当初計画していた3地域では行えなかったが、座談会を1地域(糸満市)で無観客開催した。地元で糸満ハーレーの保存継承に携わっている方をメインにパネリストを構成し、座談会の映像と書き起こしを作成した。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・地域文化継承に関して、文化関連団体間の横の連携が取れていない。各地の取組について情報交換できるような場がない。

##### ○外部環境の変化

・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。

・娯楽の多様化に伴い、自らの地域の伝統行事・伝統芸能への関心が薄れている。

・コロナ禍により、各種のイベント中止が相次いでいる。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとうば」を絡めたシンポジウムを開催する必要がある。

・地域文化の普及継承に携わる各団体の連携を強化するため、情報交換の場を提供し、今後の地域文化の普及継承に対する機運醸成を図る必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

・引き続き各地域の特色・違いを再発見し愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとうば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底の上で開催する。

・地域の伝統芸能等に関するテーマを1つ取り上げた講演会を開き、複数の地域を招いて情報交換の場を提供することで、県民1人1人が自身の地域の伝統文化を見つめ直すよう機運醸成を図る。



様式1(主な取組)

活動指標名	動画コンテンツの制作				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	6話	25話	25話	24話	5話	100.0%	19,889	順調	<p>無形文化遺産のひとつである伝承話の記録を保存・継承・活用するため、平成28年度に選定した優良民話80話の中から24話の動画コンテンツを制作した。また、令和元年度に制作した動画コンテンツの上映会を行うとともに、デジタル民話のサイトを構築し、動画コンテンツとデータベースをWEBで配信した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>令和2年度は、大学等外部専門家の監修の下、デジタル動画コンテンツを24話制作し、伝承話の保存・継承を図った。また、令和元年度に制作した動画コンテンツについて公民館やデイサービスセンター及び県立博物館内で上映会を実施し、のべ274人が参加し、一般県民が伝承話に触れる機会を創出した。さらに、動画コンテンツと民話データベースのWEB配信を始めたことにより、地域を越えた新しい伝承話活用の場を構築した。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>館内外での上映会の機会を増やし、動画コンテンツのWeb配信や活用法について効果的な発信を行う。</li> <li>子供達が鑑賞する機会を増やすため、チラシ等を配布し学校への周知活動を行う。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>民話及び「しまくとぅば」への理解・関心を高めるため、制作した動画についてWeb配信を開始するとともに館内外での上映会を行った。</li> <li>子供達が鑑賞する機会を増やすため、チラシ等を配布し学校への周知活動を行った。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・制作した動画やWEBサイトについて、多くの人に鑑賞してもらうため広報を行う必要がある。

##### ○外部環境の変化

・本島及び離島地域でも「しまくとぅば」を話す人が減少し、生活の中での次世代への継承が難しくなっているため、「しまくとぅば」の保存・活用に継続的に取り組む必要性が高まっている。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・「しまくとぅば」への理解・関心を高めるために、上映会の機会を増やして動画コンテンツのWeb配信や活用法について周知を広げる必要がある。
- ・次世代への継承のため、特に子供達に楽しく鑑賞してもらう機会を増やす必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・館内外での上映会の機会を増やし、動画コンテンツのWeb配信や活用法について効果的な発信を行う。
- ・子供達が鑑賞する機会を増やすため、チラシ等を配布し学校への周知活動を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	② 伝統行事の伝承・復元
			施策の小項目名	—
主な取組	沖縄食文化の保存・普及・継承			
対応する主な課題	②各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ、琉球料理等の伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
文化や歴史に培われてきた沖縄特有の食文化を保存・継承するとともに、伝統的な食文化を活用して沖縄文化の魅力を県内外に発信するための調査・検討を行い、食文化のあるべき姿、進むべき方向性を明確にする。		人材養成 毎年度5名				
実施主体	県	伝統食文化の普及推進計画に基づく取組の実施				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		沖縄食文化保存・普及・継承事業							
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
							当初予算額	主な財源	
県単等	委託	9,142	8,477	17,316	19,082	17,406	14,925	県単等	OR2年度： 琉球料理传承人の活用を行うとともに、伝統的な食文化のDB化のための検討、情報収集を行う。また、日本遺産を活用した食文化の普及に取り組む。 OR3年度： 琉球料理传承人の活用を行うとともに、伝統的な食文化のDBをWeb上で公開する。また、日本遺産を活用した食文化の普及に取り組む。
予算事業名									
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
							当初予算額	主な財源	
									OR2年度： OR3年度：



様式1(主な取組)

活動指標名	普及推進計画に基づく人材養成(単位:人)				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値	—	22	24	23	69 (フォロー アップ講 座)	5	100.0%	17,406	順調	<p>「沖縄の伝統的な食文化の普及推進計画」に基づき、沖縄の伝統的な食文化の普及啓発活動を行う担い手を育成するため、過去に担い手育成講座を受講した「琉球料理传承人」を対象にフォローアップ講座の動画配信を行ったほか、WEBサイトやガイドブックを活用して、広く伝統的な食文化の魅力の情報を発信した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>過去3年間に琉球料理传承人担い手講座を受講した69名に対し調理実習からなる担い手育成フォローアップ講座の動画を配信した。また、琉球料理传承人によるイベントブースへの出展や琉球料理レシピ動画の配信を行い、沖縄の伝統的な食文化の保存・普及・継承に向けて順調に取組を推進した。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値										
活動指標名					R2年度					
実績値										
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民が伝統的な食文化の価値を再認識するため、学校現場と連携を図り、小学生やその保護者が琉球料理に触れる機会を増やす。</li> <li>・観光資源として位置づけるため、琉球料理を提供するお店の認証や効果的なプロモーションについて検討する。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源として位置づけるため、「琉球料理」と「泡盛」、「芸能」をテーマとしたストーリーが日本遺産に認定された。</li> <li>・琉球料理传承人による出前講座について、ホテル料理人等を対象とした講座や北部、宮古、八重山を含む県内5地域で開催し、より効果的な普及ができた。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・ 県民が伝統的な食文化の価値を再認識するとともに観光資源として活用するために、琉球料理に触れる機会の増や、伝統的な食文化の情報発信が必要である。

##### ○外部環境の変化

・ 沖縄の伝統的な食文化を継承する人材の高齢化等やライフスタイルの変化などから、琉球料理を提供する老舗のお店が少なくなり、県民が琉球料理を食べる機会が少なくなっている。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 県民が伝統的な食文化の価値を再認識するため、学校現場と連携を図り、小学生やその保護者が琉球料理に触れる機会を増やす必要がある。
- ・ 観光資源として位置づけるため、琉球料理を提供するお店の認証や効果的なプロモーションについて検討する必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・ 県民が伝統的な食文化の価値を再認識するため、学校現場と連携を図り、小学生やその保護者が琉球料理に触れる機会を増やす。
- ・ 観光資源として位置づけるため、琉球料理を提供するお店の認証や効果的なプロモーションについて検討する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	② 伝統行事の伝承・復元
			施策の小項目名	—
主な取組	沖縄文化の継承、発展及び発信			
対応する主な課題	②各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ、琉球料理等の伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
沖縄文化の継承、発展及び発信（文化観光スポーツ部）				「琉球歴史文化の日（仮称）」 の検討	琉球歴史文化の日 条例の制定	琉球歴史文化の日 条例に係る周知啓発
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課	【098-866-2768】				→

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	運営費（文化振興課）						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
	主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
県単等	直接実施	—	—	—	201	—	—	県単等	OR2年度： 琉球歴史文化の日の候補日選定及び内定 琉球歴史文化の日条例の制定  OR3年度：
予算事業名	琉球歴史文化の日周知啓発事業						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
	主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
県単等	委託	—	—	—	—	—	12,927	県単等	OR2年度：  OR3年度： 琉球歴史文化の日条例にかかる周知啓発活動等

様式1(主な取組)

活動指標名	「琉球歴史文化の日」の制定検討委員会開催数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	7回	—	—	100.0%	0	順調	令和2年3月に「琉球歴史文化の日」の制定について11月1日が候補日として発表された。それに伴い琉球歴史文化の日を定めた琉球歴史文化の日条例の制定に向け取り組んだ。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>「琉球歴史文化の日」に関する条例を制定し、記念事業（シンポジウム等）を実施する等して、広く県内へ周知を図る。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年3月31日に琉球歴史文化の日条例を制定した。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・先人たちが創り上げてきた沖縄県の歴史及び文化への理解を深め、故郷への誇りや愛着を感じられる地域社会の形成を目指すとともに、新たな歴史や文化を自らの手で創造していく意識を醸成するため、琉球歴史文化の日条例を制定した。

##### ○外部環境の変化

・令和元年10月31日に首里城が焼失し、国内外に大きな衝撃と深い悲しみを与えた。首里城が沖縄の歴史や文化のシンボルであり、県民のアイデンティティと深く結びついていることを改めて認識させられるものであった。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・琉球歴史文化の日制定を通じ、県民が伝統文化への理解を深める機会とするとともに、伝統文化の普及継承についても自ら考えていく契機となるよう取り組む必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

・琉球歴史文化の日条例を制定したことを踏まえ、翌年度以降は記念事業 (シンポジウム等) を実施する等して、広く県内へ周知を図る。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	③ 文化財の適切な保存
			施策の小項目名	○埋蔵文化財の発掘調査、戦災文化財の復元、在外文化財の調査・返還
主な取組	琉球王国文化遺産集積・再興事業			
対応する主な課題	③「琉球王国のグスク及び関連遺産群」をはじめ、沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財を適切に保護し、後世に引き継いでいくことが重要な課題である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
戦災等により失われた8分野の工芸品製作のティーワジャ(手わざ)など王国時代の精緻で至高の技の世界を現代に蘇らせ、世界に誇る沖縄の手わざの力をモノを通して県内外へ発信し、琉球王国文化をブランドとした文化観光拠点として沖縄をアピールする。		復元品の製作(累計)		58件		
実施主体		県				
担当部課【連絡先】		文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】				
		王国文化遺産の再興による復元品製作			復元した王国文化遺産の発信・展示公開	

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名 琉球王国文化遺産集積・再興事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	委託	150,657	182,088	102,845	91,482	65,590	76,983	一括交付金(ソフト)	OR2年度: 模造復元品の製作を行い5件を完成させた。また復元の成果を紹介する展覧会等を県内で3回開催した。 OR3年度: 復元した製作品を通して模造復元の技術や琉球王国の文化を紹介する展覧会を県内外で3回開催する。
予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
									OR2年度: OR3年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	模造復元品の製作(累計)				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	7件	18件	36件	60件	65件	65件	100.0%	65,590	順調	<p>戦災等により失われた琉球王国時代の有形無形の文化財の模造復元製作に取り組み、令和2年度は木彫2件、漆芸2件、三線1件の5件(累計65件)が完成した。また復元資料を紹介する展覧会を宮古島市、石垣市、首里城公園で開催し、関連催事では製作者による報告会を開催した。</p>
活動指標名	展覧会の開催による発信(累計)				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	1回	4回	5回	80.0%			<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>平成27年度に作成した実施設計書を基に、平成28年度から琉球王国時代を代表する8分野(絵画・木彫・漆芸・石彫・染織・陶芸・金工・三線)の模造復元製作を開始し、令和2年度で計画した65件すべてが完成し、有形無形の文化財の復元が順調に進んだ。また復元資料の展覧会を開催し約10,000人以上が観覧した。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大を受け、8月に予定していた久米島巡回展の開催を中止し、次年度以降に延期した。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>琉球王国文化の理解の向上、事業成果の活用の促進のため、手わざによって復元した資料を紹介する展覧会をはじめ、製作工程で得られた知見等を発表する報告会や講演会、ワークショップ等を県内各地で開催する。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>模造復元製作のために監修者会議及び製作ワーキング会議を各分野ごとに実施。また製作の計画・実施・確認のために工程会議を定期的で開催し、模造復元資料を5件(累計65件)完成させた。</li> <li>本事業の周知並びに王国文化の理解のため過年度までの復元資料を紹介する展覧会「手わざ」展を宮古島市・石垣市・首里城公園・県立芸大で開催した。また製作工程で得られた知見等を発表する報告会を実施した。</li> <li>製作工程や模造復元品の拡大写真等を当館の公式サイトで発信し、多くの人が閲覧できるように改善した。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・復元資料を展示する「手わざ」展では、模造復元資料を通して琉球王国の文化や復元した手わざ(技術)及びその製作工程を幅広く紹介するための発信方法を工夫する必要がある。

##### ○外部環境の変化

- ・沖縄への観光客の増加や首里城火災等により、琉球王国時代の美術工芸品等の文化財やその復元に対する関心が高まっている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に鑑み、展覧会の開催に当たっては県イベント等実施ガイドラインを遵守するなど感染防止対策に万全を期す。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・一般の方から美術工芸品製作関係者まで幅広い興味に応えるため、製作した復元品及び事業で得た知見について効果的な発信方法を工夫する必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染拡大等の社会情勢を受け、観覧者が安心して資料を閲覧する環境づくりに取り組む必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

・琉球王国文化の理解の向上、事業成果の活用の促進のため、手わざによって復元した資料を紹介する展覧会等をはじめ、製作工程で得られた知見等を発表する報告会や講演会、ワークショップ等を県内外で開催する。



様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	③ 文化財の適切な保存
			施策の小項目名	○埋蔵文化財の発掘調査、戦災文化財の復元、在外文化財の調査・返還
主な取組	在外琉球王国文化財里帰り事業			
対応する主な課題	③「琉球王国のグスク及び関連遺産群」をはじめ、沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財を適切に保護し、後世に引き継いでいくことが重要な課題である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
様々な理由で県外に所在する琉球王国関連文化財に関し、教育委員会が実施した「在米国沖縄関連文化財調査」(平成2年度～平成6年度)を踏まえ、県立博物館・美術館の学芸員が米国において現地調査を行う。 なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、海外調査を中止した。					米国博物館資料調査	
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課		【098-866-2768】			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		在外琉球王国文化財里帰り事業							
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
							当初予算額	主な財源	
県単等	直接実施	—	—	—	—	0	2,500	県単等	OR2年度： 新型コロナウイルス感染拡大のため、海外調査を中止した。 OR3年度： 米国の博物館等で現地調査を2回実施する。ただし、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、現地調査の可否を判断する必要がある。
予算事業名									
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
							当初予算額	主な財源	
									OR2年度： OR3年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	現地調査の実施				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	0回	2回	0.0%	0	大幅遅れ	活動概要 新型コロナウイルスの感染拡大のため、米国の博物館等での現地調査を中止した。  進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 新型コロナウイルスの感染拡大のため、米国の博物館等での現地調査を中止したことから、未着手とした。
活動指標名	新型コロナウイルスの感染状況及び海外渡航に係る情報収集				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	情報収集	—	100.0%			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
						・特になし				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

- ・ 特になし

##### ○外部環境の変化

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大のため、海外渡航ができなかった。また、米国における新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、現地調査を予定していた博物館等も休館となり、調査の受け入れが不可となった。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 新型コロナウイルスの感染状況及び海外渡航の可否や調査予定の博物館等の調査受け入れ状況について、情報収集や連絡調整を継続する必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・ 新型コロナウイルスの感染状況及び海外渡航に係る情報収集の把握に努める。また、調査予定の博物館等との連絡調整を継続し、調査体制の構築に万全を期す。